

銀杏学園通信

# ぎんきょう

G I N K Y O



## 特集

SPECIAL FEATURE

レストランと図書館のリニューアル  
化血研との共同研究講座開設

### NEWS & TOPICS

第14回日本臨床検査学教育学会学術大会報告  
オープンキャンパス & チャレンジ熊保大！開催 他

### ふれあいサロン

杏祭・サークルINFO

NO. 41  
2020  
JANUARY  
www.kumamoto-hsu.ac.jp

## 02 Feature1

特集1 レストランと図書館のリニューアル

## 04 Feature2

特集2 化血研との共同研究講座開設

## 05 News&amp;Topics

News&amp;Topics

## 08 Report by Students

実習体験レポート

## 10 Report by Students

OB 就職活動ルポ

## 11 Social

地域連携

## 12 International exchange

国際交流

## 13 Anzusai &amp; Club information

杏祭 &amp; サークル INFO

## 15 Information

研究室紹介／新任教職員紹介／Library

## 16 Information

コラム／基本理念・教育目標／  
将来ビジョン／「熊保大夢基金」のお願い  
／編集後記

## No. 41 の表紙

学園祭 (第43回杏祭)<sup>あんずさい</sup> (R1.10)

# レストランと 図書館のリニューアル

レストランと図書館のリニューアルについて

理事長 崎元 達郎

平成15年の開学当初に約800名であった学生数が、現在では1600名弱と2倍程度になり、アリーナ、レストラン、図書館、駐車場などの共用スペースの収容能力が、不足がちでありました。それを打開・解消するため、西里駅側に土地を購入し、新アリーナ・駐車場の建設と夜も明るい安全な通学路の確保に着手し、平成30年3月に旧アリーナの1.5倍の新アリーナと駐車場が完成しました。残る共用スペースは、レストランと図書館です。旧アリーナは、築16年程度ですからまだ建物としては使えるので、旧アリーナの外側の構造は利用することにして、内部を吹き抜けの2階構造に改装し、レストランとすることにしました。1階には、ローソンも移設します。同時に、この建物が、大学の西側の玄関に相当するので、ゲートを設置し、その下に、テラス席を拡張するデザインを採用しました。このテラスでの快適な食事が、待ち遠しい限りです。

旧アリーナに移設した今のレストラン跡は、図書館と隣接していますので、図書館スペースとして拡張します。具体的には、今、1号館にあるキャンパステラス（ラーニングcommons）を移設し、さらに、機能を向上したラーニングcommonsに作り替えます。新レストランは、新しい業者さんに運営していただき、来年（令和2年）2学期からオープン予定です。図書館の拡張は、令和3年3月に完成予定です。改修工事中は、ご不便をおかけしますが、素晴らしいリニューアルをご期待ください。

## 2. 新レストラン（旧アリーナ改造）

### （主な仕様）

建築面積 : 1,433.61㎡  
延べ床面積 : 1,947.10㎡  
収容人員 : 670名（1階：470名、2階：200名）

### （主要設備）

厨房  
コンビニエンスストアー  
学友会室・文科系部室3室  
トイレ（1階、2階）  
エレベーター

### （建築スケジュール）

令和元年12月初旬着工～令和2年9月中旬完成予定  
（10月より運用開始）



1階 内観（イメージ図）



2階 内観（イメージ図）

## 1. 新部室

### (主な仕様)

建設場所 : アリーナ西側  
 建築面積 : 150.32㎡  
 延べ床面積 : 224.32㎡  
 鉄骨造、2階建、  
 12室(約15㎡/室)

### (建築スケジュール)

令和元年8月着工～  
 11月15日完成



フロントゲート外観(イメージ図)

## 3. キャンパステラス・アカデミックスキルラボ (現レストラン改造)

### ① キャンパステラス

#### (主な仕様)

床面積(現ホール): 600㎡

#### (主要設備)

受付(現カフェコーナー)  
 大学習室: 130名  
 (間仕切壁により2室使用可)  
 PC・AVコーナー  
 小グループ学習コーナー  
 コロシウム式イベントコーナー  
 リフレッシュルーム

### ② アカデミックスキルラボ

#### (主な仕様)

床面積(現厨房): 120㎡

#### (主要設備)

教員室  
 スタッフルーム  
 ミーティングルーム  
 パントリー

#### (建築スケジュール)

令和2年11月初旬着工～  
 令和3年2月完成予定



キャンパステラス・アカデミックスキルラボ(イメージ図)

# 化血研との共同研究講座開設

「保健医療分野の教育と研究を通じて社会に貢献できる医療技術者を養成する」という本学のミッションと、一般財団法人化学及び血清療法研究所（以下、化血研）の事業テーマの共通項を踏まえて、令和元年10月1日付けで、熊本大・化血研共同研究講座『生物毒素・抗毒素共同研究講座』が開設された。スタッフは、高橋元秀特命教授（元国立感染症研究所 室長）、坂本智代美特命助教（元熊本大学発生医学研究所）に、友清和彦客員教授（化血研）と諸熊一則客員准教授（KMバイオロジクス（株））を加えた4名体制である。本講座の設置期間は当面5年間の予定で、研究テーマとしては、「生物学的製剤の新規品質管理手法の開発研究」、「ウマ抗毒素製剤に代わりうるヒト型抗体製剤の基礎研究」、「蛇毒培養細胞からの蛇毒供給手法の開発研究」等を掲げている。この開設を記念して、10月28日に、本学50周年記念館で開催記念講演会が開催された。

令和元年10月1日に本学と一般財団法人 化学及び血清療法研究所との間で、「生物毒素・抗毒素共同研究講座」を開設しました。

講座の名称を決定した根拠を説明いたします。「生物毒素」は 細菌毒素と蛇毒、海洋生物毒素も研究範囲としています。「抗毒素」は古典的なウマ血液由来の抗毒素製剤と人血液由来免疫グロブリン製剤の改良開発を目指す研究範囲を想定しています。これらについては、生物学的製剤として予防用のワクチン、治療用の製剤が製造販売されていますが、品質試験法は古典的なバイオアッセイの手法が多く用いられていますので、この改良法の検討も課題としております。

破傷風、ジフテリア、ボツリヌス等の感染症は細菌の産生する毒素が主たる病原因子として発症しますが、毒素の作用、機能の研究は日進月歩で進んでいます。毒蛇等の毒素についても細菌学、免疫学、遺伝子学、分子生物学、工学等の近年の科学進歩に合わせた広範囲の手法で基礎研究を目指しています。また、「抗毒素」は、100年ほど前に北里柴三郎ら研究者が開発し、感染症や蛇咬傷後の重篤な患者治療に用いられています。抗毒素とは「細菌の外毒素、動物毒素などの生物毒素を、主にウマに接種した後に誘導される中和活性を有する抗体」と定義され、国内では、ジフテリアウマ抗毒素、ガスエスウマ抗毒素、ボツリヌスウマ抗毒素、はぶウマ抗毒素、まむしウマ抗毒素がKMバイオロジクスから供給されています。

本稿では、破傷風の予防、血清疫学、治療を中心に、講座で取り組む課題の重要性、方向性を紹介します。

破傷風は主に土壌にいる破傷風菌（芽胞）が汚染した創傷部が嫌氣的病巣を形成した場合に感染・発症する疾病です。破傷風トキソイドワクチンの接種・導入により、約60年間で患者報告数は現在十分の1に減少しました。しかし、今日でも年間に約100名の患者報告数があり、患者の年齢はほとんどが50歳以上です。これは乳幼児期と11歳での破傷風トキソイドワクチンを最後に成人での追加免疫がないために、血清中の破傷風の抗体が低下したため

す（図1）。このトキソイドワクチンの品質を確認するためには、人に接種後の安全性と効果を予測するために、抗原性と免疫原性の試験があります。抗原性は細菌学的な沈降反応や綿状反応を指標とした試験ですが、免疫原性試験は、トキソイドワクチンを人体に接種したときに産生される効果のある抗体（中和抗体）が産生されているかを実験動物で試験するものです。残念ながら、上記の試験法の大半は近年の科学的手法が導入されておらず、改良の余地があります。破傷風毒素の作用と機能は基礎研究の成果により、ボツリヌス毒素と同じように 神経伝達物質が神経終末から運動筋接合部への伝達が遮断されるために筋肉の麻痺がおこることが解明されています。研究講座では、細胞内への毒素の取り込み、毒素酵素の作用部位、方法等の解析結果を利用することで「毒素機能・作用を反映した試験法（Functional assay）」への変更を目的に実験動物を用いない試験方法への研究をおこないます。

また、日本や欧米では、患者の治療には、人血液（血漿）を精製した抗破傷風人免疫グロブリンが用いられていますが、アジア、アフリカなどでは、旧来のウマ抗毒素が使用されています。ウマ抗毒素は、人体にとって異種タンパクであり、アレルギー反応や血清病の恐れがあります。日本国内で製造されている抗破傷風人免疫グロブリンは、アレルギー反応を抑えられた医薬品として開発されました。しかし、原料（人の粉末血漿）は、すべて海外から輸入したものであり、医薬品の自給、安定供給の面では、日本も万全の体制とはいえません（表1）。

一方、この数年、人（化）モノクロー抗体製剤が数種のガン治療に医薬品として用いられてきました。残念ながら、感染症の治療薬としては開発されていませんが、抗体製剤としての有効性と安全性は医療現場で確認されています。当研究講座では、上記の問題点を解決し、さらに医薬品として開発後には海外の患者治療に寄与できる安価で安全なものづくりに貢献することを目指しています。

毒蛇咬傷の診断、治療については、海外では国内の被害をはるかに超える社会的な問題となっている国があります。上述の破傷風と同様に、蛇毒抗毒素の品質管理技術の向上を目指して研究活動を推進してまいります。

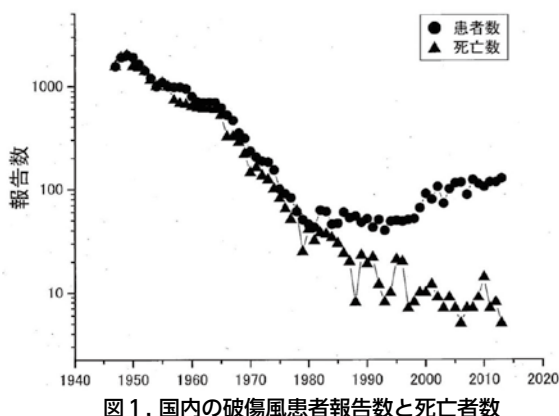


図1、国内の破傷風患者報告数と死亡者数

資料3 改定  
平成30年度第5回血液事業部会

血液製剤の種類	換算単位・単位	製造・輸入量			供給量		自給率(供給率)	
		(計)	うち国内産	国外産	28年度	29年度	28年度	29年度
アルブミン	20000(瓶)	2,245,881 (104.2%)	1,424,853 (101.8%)	2,244,023 (99.2%)	54.4%	52.9%		
		2,222,200	1,402,000	2,431,300				
乾燥人フィブリノゲン	kg	8,645 (93.8%)	8,645 (93.8%)	10,279 (100.4%)	100.0%	100.0%		
		10,300	10,300	9,400				
乾燥線菌素	凍結単位(単位)	13,254,032 (127.8%)	2,522,020 (18.9%)	12,472,965 (127.4%)	39%	15.9%		
		9,684,900	2,050,600	9,348,700				
人免疫グロブリン	2.5g(瓶)	2,028,425 (95.9%)	1,911,047 (95.6%)	2,119,329 (102.0%)	94.8%	84.8%		
		2,124,600	2,000,900	2,077,200				
抗Hbs人免疫グロブリン	1000単位(瓶)	11,907 (46.0%)	547	16,234 (56.1%)	3.0%	3.8%		
		24,300	0	16,300				
乾燥抗D(Rho)人免疫グロブリン	1000単位	7,118 (80.9%)	-	11,899 (96.7%)	0.0%	0.0%		
		8,800	-	12,300				
抗破傷風人免疫グロブリン	250単位(瓶)	41,320 (92.1%)	-	47,490 (98.3%)	0.0%	0.0%		
		45,100	-	48,200				

すべて海外から輸入した原料で製剤化

表1、平成29年度の血漿分画製剤の需要状況（需給計画との比較）



## 第14回日本臨床検査学教育学会学術大会報告

大会長 古閑 公治  
(医学検査学科 教授)

第14回日本臨床検査学教育学会学術大会を令和元年8月21日（水）から23日（金）の3日間、本学におきまして「支え合う・寄り添う」をテーマとして開催させていただきました。この大会は、全国の臨床検査技師養成校88校が加盟する日本臨床検査学教育協議会の教員が主会員です。大会期間中に基調講演の「臨地実習前の総合実習に対する協議会の方向性」、シンポジウムの「臨床検査技師における修学支援について：多様な学生への支援」、教育講演1から3のそれぞれ「今どきの若者像」、「これからPBLチュートリアルを始める方へのメッセージ」、「医療紛争の現状と臨床検査技師の法的責任」などの臨床検査技師教育に関する最新情報の講演でした。また特別招聘講演では「災害医療支援における職種連携～熊本地震から学んだこと～」、特別講演では「地震と建物」など熊本地震関連の特色のある内容でした。さらに一般演題発表では、教員、学部生、大学院生などが教育関連から各専門分野まで幅広いテーマ100演題で活発な討論が行われ、盛会に終了することが出来ました。天候にも恵まれたこと、何よりも医学検査学科をはじめ本学教職員のご協力・ご支援により、学会準備を滞りなく進められたことに関して、本学教職員の皆様へ心より御礼申し上げます。

今年、学校法人銀杏学園創立60周年の記念となる年に小規模ながらも全国学会学術大会を開催できたことに誇りを持ち、「地域に愛され、日本の保健医療分野をリードする大学」を目指す一員としてinnovationを抱き続ける所存です。



学会風景（50周年記念館）

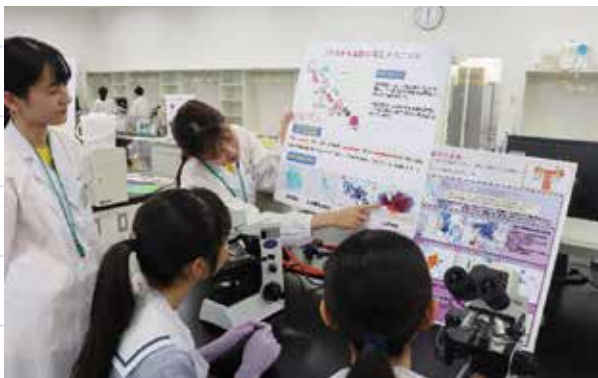


## オープンキャンパス&チャレンジ熊保大！開催

令和元年7月21日（日）と8月18日（日）にオープンキャンパスを開催し、多くの高校生や保護者様にご参加いただきました。特に8月18日（日）の参加者数は1,069名と過去最多となり、さらに7・8月期合わせても1,847名と過去最多の参加者となりました。当日は模擬実習など、各学科専攻の特色を生かしたブースを多数設置しました。参加された高校生の皆様にとって、将来の職業選択の一助となれば幸いです。

また、8月25日（日）と12月8日（日）にはチャレンジ熊保大！（推薦入試対策講座、一般入試対策講座）を開催しました。このイベントは地元の大学予備校・壺溪塾の先生方から本学の入試対策を教授いただくものですが、こちらも多数の方々を受講されました。本学にご来学いただきました皆様および壺溪塾の先生方に対し、心より御礼申し上げます。

(広報課)



オープンキャンパス



チャレンジ熊保大！

キャリア教育研修センター 課程長 教授 橋本 宜子  
准教授 飯山 有紀

全国で唯一の『脳卒中看護分野』の開設（日本看護協会および厚生労働省申請中）に向けて準備を進めています。日本看護協会は、2020年度より特定行為研修を組み込んだ新たな認定看護師教育の開始と、認定看護分野の再編を決定しました。脳卒中リハビリテーション看護分野は、脳卒中看護分野への名称変更が決定しています。

カリキュラムの変更点は、「臨床病態生理学」や「疾病・臨床病態概論」など、特定行為研修に合わせて共通科目の時間数が増えたことです。臨床推論やフィジカルアセスメントによって対象を描く力を強化するカリキュラムになっており、修了後には、病院だけではなく在宅における看護の専門性の発揮が期待されています。

一年間の課程ですがe-ラーニングを併用した教育を可能とするため、集合教育期間はこれまでと同様の6ヶ月程度を予定しています。助成金制度を利用することもできますし、キャリアアップや専門性を高めたいnurseには必見です！



シミュレーション機器を使用した学内実習のイメージ (写真提供: 株式会社京都科学)

令和元年9月20日(金)新アリーナにてリハビリテーション学科の合同就職説明会を開催いたしました。その主たる目的は、施設情報を把握するとともに、自分の職業観を再確認し、進路決定の一助とするものです。当日は82施設（県内37施設、県外45施設）の医療施設の皆さまにお集まりいただき、各施設の業務内容や教育体制、採用情報などについてご説明いただきました。参加された施設の方々からは「学生が積極的に就職について考えていることに感動しました」、「印象の良い学生がほとんどでよかったです」など、大変ありがたい感想をいただきました。また、学生たちからは「実際に話を聞くことでより真剣に考えることができました」、「就活のモチベーションが上がりました」などの声がありました。4年生はいよいよ就職活動が本格的に開始いたします。自分たちの納得のいく就職活動ができることを期待しています。そして、雨天での開催となりましたが、ご参加いただいた施設の皆さまには感謝申し上げます。（就職支援課）



看護学科同窓会会長 中野 博之

令和元年11月9日(土)熊本保健科学大学50周年記念館において、熊本保健科学大学 看護学科同窓会創立30周年記念講演会を開催し、看護学科卒業生、教職員、本学在学生など、約350名が参加されました。

看護学科は、1983年(昭和58年)に銀杏学園短期大学看護学科として誕生し、1989年(平成元年)、昭和から平成と変わった年に看護学科同窓会が創立されました。

今回、30周年という節目を無事迎えることができましたのは、大学・教職員の方々や卒業生のご理解、ご協力があった賜物と感謝いたします。

記念講演会では、メンタリストのDaigo氏をお招きし、「人の心を動かす〜ザ・メンタリズム〜」と題して、ご講演くださいました。メンタリズムは、医療・介護・福祉等の現場で働く上で重要なスキルです。講演では色々なケースに応じた心の持ち方や対応方法などの話があり、フロアからの質問にもお答え頂き大盛況でした。

看護学科同窓会では、今後も同窓会活動を通して、卒業生との交流の機会を作りながら、熊本保健科学大学の更なる発展に貢献していきたいと思っております。



N&T

## 動物慰霊祭

令和元年10月16日(水) 秋晴れの中、12:30より令和元年度動物慰霊祭を執り行いました。

動物たちの御霊に感謝の意を込めて黙とうを行い、大学を代表して竹屋学長、学生を代表して医学検査学科2年久多見 健太さんが慰霊の詞を述べ、次に崎元理事長、竹屋学長、動物実験委員長の田中聡教授、学生の代表として医学検査学科2年溝口 直紀さん 4名が代表で献花を行いました。

本学の実験動物として犠牲になった動物たちの御霊の冥福を心よりお祈りし、動物慰霊祭を終えました。終了後に参列していた学生・教職員も献花を行い、動物たちの御霊に冥福と感謝の祈りを捧げました。(総務課)



N&T

## 2・3年次保護者会

令和元年9月28日(土)、本学にて2年生・3年生を対象とした保護者会を開催いたしました(2年生 理学療法学専攻・言語聴覚学専攻, 3年生 医学検査学科・生活機能療法学専攻)。その主たる目的は、学生本人が長期の学外実習をより有意義なものにするため、保護者の皆さまと大学教職員が協力してサポートしていく会であること。さらに、今後の国家試験・就職活動を成功裏に導くためのスタートの日にすることです。

当日は、本学50周年記念館にて、学生生活における防犯等に関する講演会、崎元理事長による大学概要の説明、各学科専攻に分かれての分科会、個別面談などが行われ、活発な意見交換がなされました。当日は、医学検査学科74名、理学療法学専攻24名、生活機能療法学専攻26名、言語聴覚学専攻21名の保護者の方々にご来学いただきました。これから始まる長期実習に向けて学生の皆さまが安心して臨めるよう、保護者の方々と一緒にサポートしていきたいと思っております。(就職支援課)



N&T

## 医学検査学科 臨地実習認定式

医学検査学科 講師 永田 和美

令和元年10月30日(水)に、くまもと森都総合病院 医療技術部 部長 西浦明彦先生を来賓としてお迎えし、医学検査学科3年生103名が参加して臨地実習認定式が行われました。この臨地実習認定式は11月4日から47日間の日程で実施される臨地実習前に実施される19日間の臨地実習前教育(OSCE)最終日に行われます。臨地実習認定式では、学長から学生一人一人に「おめでとう」の言葉とともに臨地実習適格認定証が授与され、学生は「ありがとうございます。しっかり学んで帰ってきます。」と受け取っていました。学長告示では「本学の四綱領(知識、技術、思慮、仁愛)を胸に臨地実習を有意義に実践していくことについて」の話があり、その後、学生による「ヒポクラテスの誓い」の宣誓、来賓の西浦先生の訓示、医学検査学科長訓示があり、厳かな雰囲気の中、臨地実習認定式は滞りなく終了しました。



# 実習体験レポート

## 医学検査学科



医学検査学科 3年  
土橋 朱音

私が臨床検査技師になりたいと思ったきっかけは中学生の頃の職業体験でした。あの頃は単純に検査だけすると考えていた技師像でしたが、大学で学ぶうちに、得られた結果を報告するだけでなく解釈してドクターに正確に伝えることが検査技師の役目であると感じるようになりました。検査の種類も様々で、ただ検査をするだけでなくチーム医療の一員として病棟をまわったり、機器の精度管理をしたりととても大変だけどやりがいのある仕事だと思うようになりました。

臨地実習は臨床検査技師になりたい私にとって、現場で約3ヶ月間体験できるため楽しみにしていました。実習初日、検査室に入るとたくさんの機器があり、耐えず聞こえてくる機械音におどろかされました。また、中型搬送装置やエアシューターなど、外来や病棟患者の検体を効率よく検査室に持ってくる仕組みにも感動しました。1日多い時で約1400検体を処理するため緊張感をもって業務をしなければなりません。また、ラベルのチェックや検査結果を、何回も確認することで、ミスをなくす工夫がされており、人の命に関わる検査を行っているという自覚を持って技師さんたちは業務に取り組まれていると強く感じました。また、大学の講義ではなかなかイメージがつかみにくかった自動分析装置や精度管理のことをより理解することもできました。

臨地実習も約1ヶ月が過ぎ、とても充実した日々を送っています。実習先にも熊本保健科学大学（銀杏短大）の先輩方がいらっしやって、自分も先輩方のようになりたいと思いました。残りの実習も感謝の気持ちで忘れず、たくさんの学びを吸収して目標とする臨床検査技師になれるよう精進していきたいと思っています。

## 看護学科

看護学科 4年  
工藤 美穂

実習では、座学で学んできたことを現場で患者さんと関わりながら、考え実践していく貴重な機会でした。

3年次の実習では患者さんが困っていることや不安に思っていること、患者さんにとってよいことは何かを考え、そこへの介入を検討していきました。それをする上で、患者さんと信頼関係を築くことや疾患に関する知識が必要不可欠でした。はじめのうちはそれが難しく、実践を行う上で苦勞する場面はありましたが、先生や指導者の方に指導をいただきながら、少しずつ実践ができるようになりました。

実習を通して自分のコミュニケーション能力の向上や知識が定着し看護の視点を学ぶことができ、自分の成長を感じています。患者さんにとってよりよい看護とは何かを考えながら学ぶことができ、貴重な体験ができたと思っています。

最後に、実習で関わらせていただいた皆様、お力添えいただいた皆様に深く感謝申し上げます。

## リハビリテーション学科



リハビリテーション学科  
理学療法学専攻 4年  
吉田 朱里

私は臨床実習で特に急性期の患者様を担当させていただき、その中で術後早期の評価・介入から退院時指導までを学ぶことができました。術後早期の患者様は痛みの訴えが強いため、どのように介入すれば良いのかわからず、戸惑うこともありましたが、しかし、そのような方に対しての介入方法を教えていただき、実際に見学・模倣をすることで注意点の確認や治療プログラムの実施を行うことができました。

また、患者様と関わっていく中で信頼関係を築くことの難しさも感じました。指導者の先生方は自然な会話の中で様々な情報を聞き出されており、患者様に共感し信頼を得ることで、急性期の方の介入にもスムーズに移ることができると思いました。

臨床実習で貴重な経験をさせていただき、介入の技術や実際の患者様との関わり方について学ぶことができました。この経験を活かしながらこれからも勉強に励んでいきたいと思っています。

## リハビリテーション学科

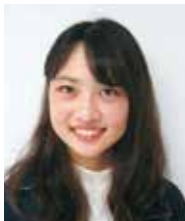


リハビリテーション学科  
生活機能療法学専攻 4年  
米原 愛莉

臨床実習では、急性期・回復期・精神科・小児領域と幅広い分野で学ぶことができました。その中で一番の学びは、患者様の「生活」に寄り添い、積極的に関わっていくことの大切さでした。作業療法士は、患者様が「帰りたい場所」を常に意識しておく必要があり、限られた時間の中で優先順位を立てて、目標を立てることの大切さを学びました。また、リハビリ以外の時間にも患者様を気に掛けることで、セラピストの知らない場面での苦勞や、他職種間での困りごとを知ることができ、そこで作業療法士が役に立つのだと学びました。私はどうしても機能面に目が行ってしまい、患者様の「生活」に視点を当てることができず苦勞しました。しかし、先生方の手厚いご指導のもと、「作業療法」について深く考えさせられ、まだまだ未熟ではありますが、作業療法士に近づくための貴重な経験をさせて頂くことができました。



## リハビリテーション学科



リハビリテーション学科

言語聴覚学専攻4年

下川 美咲

臨床実習では回復期のリハビリテーションについて学ぶことができました。その中で一番大切だと感じたことは、機能障害だけに注目するのではなく、患者様の全体に注目し、退院後を見据えた訓練を行うということです。

大学で学んだ知識や技術をもとに、実習では実際に患者様と向き合い、どのような訓練を提供したら患者様が社会に復帰できるかを考えます。私は、訓練を考えていた際に「どんなに機能障害にあてた訓練をしても、退院後に患者様が困ることがあつては、それはリハビリをしたとは言えない」とバイザーの先生に教えていただき、退院後を見据えた訓練の大切さを学びました。さらにこの経験から、患者様の全体に注目することができる言語聴覚士になりたいと強く感じました。

実習を通して自分の知識不足を実感しましたが、今後就職してからの自分の糧となる、とてもいい経験となりました。

## 助産別科

助産別科

川上 琴美

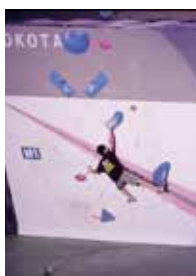
助産学実習では、妊娠期から産後まで、多くの母子やそのご家族と関わらせていただきました。

その中でも、分娩実習では11例のお産をサポートさせていただき、とても心に残っています。生命の誕生の瞬間に立ち合い、新たな家族のスタート時点に関わらせてもらったことに喜びと誇りを感じています。また、産婦さんと辛い陣痛をともに乗り越え、分娩後に笑顔で感謝のお言葉をいただいたとき、助産師を目指してよかったと強く思いました。ときに優しく、ときに厳しくご指導いただいた助産師さん方からは、助産師としてはもちろん人としての成長も学ばせていただき、さらなる助産師像を描くことができました。

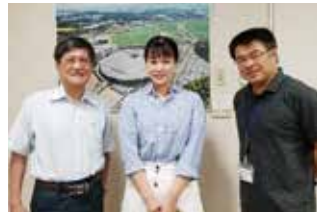
助産師は女性の一生によりそえる素敵な仕事です。実習を終えた今、専門的な知識・技術をさらに身につけ、たくさんの方を笑顔にできるような助産師になりたいと改めて実感しています。最後にお力添えいただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。

## 第74回 国民体育大会出場 & 全日本学生スポーツ射撃選手権大会に出場！

医学検査学科4年渡邊浩幸さんが、10月3日(木)～6日(日)いきいき茨城ゆめ国体2019(第74回国民体育大会)スポーツクライミング競技の熊本県代表として出場しました。渡邊さんのスポーツクライミングとの出会いは、高校の部活とのこと。10月1日(火)には壮行会が行われ、崎元理事長とスポーツクライミングの話で盛り上がりました。予選を43チーム中6位で通過し、見事8位入賞を果たされました。これからも渡邊さんのご活躍を期待しております。



リハビリテーション学科生活機能療法学専攻3年 渡邊風花さんが、10月10日(木)～13日(日)埼玉県長瀬射撃場で行われた全日本学生スポーツ射撃選手権大会に昨年に引き続き出場しました。9月に行われた秋季九州学生スポーツ射撃選手権大会を勝ち抜いての全国大会出場です。10月7日(月)には壮行会も行われ、竹屋学長からのスポーツ射撃の競技内容や点数のカウント方法等の質問に笑顔で答えていました。そんな渡邊さんにこれからもエールを送りたいと思います。(学務課)



## 研究ノート

大学院リハ領域2年  
泉 杏樹

私は現在、車いすマラソンにおけるフォームの最適化に関する研究を行なっています。車いすマラソンにおいて、駆動動作を決定する動作要因を検討することで、選手にとってどのようなフォームが最適であるか基礎的知見を得ることを目的として、ヤコビ行列を使用し定量化を試みていきたいと考えています。

車いすマラソンに関する研究についての報告は、あまり多くありません。選手一人一人に合わせて最適なフォームを検討するための基礎的知見を得ることによって、車いすマラソン競技の選手の方々が、少しでも競技を行う際の手助けになれるようにしていきたいと考えています。

# OB 就職活動ルポ

就職への道



2019年3月卒業（医学検査学科）

中村 晶奈さん

臨床検査技師  
広島赤十字・原爆病院  
検査部 一般微生物検査課

私は就職活動の際、自ら行動することと自分のペースで行うことを意識して活動していました。苦手だった面接練習では事前に質問メモのノートを作り、本番では想定外の質問にも落ち着いて答えることができました。また、周りが内定をもらう中焦りを感じるのが沢山ありましたが、自分が本当に行きたいと思える就職先をよく調べることで、集中して対策を行うことができました。就職活動では失敗や悩むことがあると思いますが、自分が行動した分、自信につながると思います。熊本生の皆さんを応援しています！



2019年3月卒業（リハ学科 理学療法学専攻）

宮川 誉浩さん

理学療法士  
熊本赤十字病院  
リハビリテーション科

私は現在、熊本赤十字病院で理学療法士として働いています。日々知識や技術を先輩方から学びながら業務に励んでいます。

私が就職を意識し始めたのは3年の春休みで、自分なりに昨年度募集が出ていた病院について調べていました。

今の病院を受験する際は、長期実習中であったため、実習施設にも協力を頂いて休みをもらい見学会に参加したり、SGの先生や就職支援課の方に実習後の時間に履歴書の添削の対応をしていただいたりして試験対策に励みました。

国家試験対策との両立は大変ですが、頑張ってください！



2019年3月卒業（リハ学科 言語聴覚学専攻）

永田 千尋さん

言語聴覚士  
九州大学病院 医療技術部  
リハビリテーション部門  
耳鼻咽喉・頭頸部外科

私は現在、九州大学病院の耳鼻咽喉科で言語聴覚士として働いています。嚥下や音声、聴覚等に障害を持つ患者様の検査やリハビリに取り組んでいます。

就職活動は、耳鼻科への就職を決めていたので志望動機や自己PRについて就職支援課の方々と一緒に考えました。病院指定の履歴書で、項目が多く考えるのに一番時間をかけました。履歴書提出から就職試験までの約1週間で面接練習を行いました。

就職や国家試験など不安になると思いますが先生方や友人と共に、良い思い出に残るような4年生にしてください。



2019年3月卒業（看護学科）

竹下 彩さん

看護師  
国立病院機構九州がんセンター

私は独立行政法人国立病院機構九州がんセンターで看護師として働いています。がんの患者さまへの看護を日々学びながら励んでいます。

まず、就職活動において一番力を入れたのは、面接対策です。就職レポートから過去の傾向を情報収集したり、友人同士で練習をしたりと何度も練習することで、経験や知識となり、確実に自分の自信となって面接に臨むことができます。それぞれに悩みや不安、苦手なことが必ずあると思います。

しかし、大学では就職支援課や看護学科の先生方がサポートして下さいます。皆さん全員が笑顔で卒業し、素敵な医療人になることを期待しています！



2019年3月卒業（リハ学科 生活機能療法学専攻）

畠田 敬史郎さん

社会医療法人社団 寿量会 熊本機能病院  
総合リハビリテーション部

私は現在、熊本機能病院で作業療法士として働いています。所属は回復期の病棟なので、急性期を経て状態が安定した患者様のリハビリを行うことが多く、毎日学びながら業務に励んでいます。

私は3年時の長期実習で回復期の病院での実習経験することで、働きたい病院のイメージを固めました。一番力を入れたのは面接対策です。面接練習では、自分が病院のどこに貢献できるのか考え、文字にすることで面接に自信をつけることができました。

就職活動は国家試験の勉強と並行して行うため焦りを感じるとはありますが、悔いの残らないよう全力で取り組んでください。



2019年3月卒業（助産別科）

佐々木 光瑠さん

助産師  
宮崎大学医学部附属病院

私は現在、宮崎大学医学部附属病院で助産師として働いています。

私は助産別科に進学後から就職先について考え、就職支援課に通いました。就職試験に向けて先輩方の就職レポートから情報収集し、就職支援課の方々に助言を頂きながら履歴書作成、面接練習を行いました。面接練習では看護学生の頃のエピソードをまとめて何度も練習を行いました。

助産別科の就職活動は講義や実習と被る為、多くの時間を割くことは難しいですが、力になって下さる就職支援課の方々にたくさん頼って、希望する現場に入職できることを願っています。

# 地域連携

## 地域連携委員会の活動報告(地域連携事務局)

### 城北校区「ふれあいの日」

10月7日(日) 熊本市の城北小学校 PTA 主催行事、城北校区「ふれあいの日」が開催され、北区役所保健子ども課と共同で行う健康コーナーおよび本学看護学科の高齢者体験コーナーにて参加いたしました。(学生 23 名、教職員 6 名)

健康コーナーでは看護学科が血圧測定、医学検査学科は骨密度・体成分の測定を行い、近郊住民、生徒保護者の方々 54 名を受け付けました。昨年好評だった看護学科担当の高齢者体験コーナーは、高齢者疑似体験として、ゴーグルや耳栓、手袋を装着し、老化による視覚・聴覚・触覚の変化を小学生等 130 名を超える来場者が体験しました。この体験が、高齢者にやさしい地域づくりに繋がることを願います。



### 第29回ふれあいフェスタ in ほくぶ

(会場：北部武道館)

10月26日(土)～27日(日)に「第29回ふれあいフェスタ in ほくぶ」に参加しました。北部武道館で、地域の方々を対象とした健康チェック(医学検査学科担当：体成分測定、骨密度測定、血管年齢測定、看護学科担当：血圧測定、身長・体重測定、腹囲測定)を行い、2日間で163名の方が測定を受けられました。また、26日(土)には、メイン会場の北部体育館で行われた「情熱ライブステージ」に本学と崇城大学の吹奏楽部が合同で参加しました。



### フードパルフェスタ 2019

(会場：熊本市食品交流会館)

11月3日(日)～4日(祝・月)に例年同様、株式会社フードパル熊本主催の「フードパルフェスタ 2019」に参加しました。リハビリテーション学科の理学療法専攻と生活機能療法専攻の教員及び学生が身長・体重、BMI、握力、脚力(台からの立ち上がり)、柔軟性(座って前屈)、敏捷性(棒落下テスト)を行い、2日間で243名の方が測定を受けられました。測定後のアドバイスを皆さん熱心に聞かれており、中には、帰り際に楽しかったと声をかけてくださる方もいらっしゃいました。これからも保健医療系大学の特性を活かした内容で地域に貢献していきたいと思っております。



## 地域包括連携医療教育研究センター(ちいき楽暮)

### 1. 熊本市北区との連携事業「若い世代からのフレイル予防事業」

包括協定を結ぶ熊本市北区保健子ども課とともに、若い世代からのフレイル予防事業を行いました。要介護(要支援)になる主な要因として、骨折、転倒、認知症、脳血管疾患があり、熊本県は、骨折が原因で要入院となったものの割合が全国ワースト2位であり、その原因となる骨粗鬆症を若い世代から予防することが喫緊の課題です。

そこで、熊本市が行う幼児健診(1歳半健診・3歳児健診)に同伴する保護者に対して、骨密度と血糖値・ヘモグロビンA1c測定を実施しました。自分自身の身体に関心を持ってもらうのと同時に、その中で、生活習慣の改善が必要な者については保健指導や情報提供を行い、健康の維持、増進に工夫を取り入れて、継続的に健康診断を受けることの必要性を働きかけています。



次年度から以下のような内容を考えています。

- ① 住民サービスとしての検査の継続
- ② 問診表の精査と項目の継続(子どもの数・母乳育児経験など)
- ③ 行動変容と健康状態変化把握
- ④ 関連要因の分析、検討
- ⑤ 高リスク者への保健指導

以上の内容を行政との連携のなかで、今後も続けていこうと思っています。



### 2. 年間を通じて講演会・研修会も開催しています。

2019年1月16日(水)には本学3号館50周年記念館においてテキサス大学コミュニケーション学部 Arvind Singhal 教授をお招きし、「Let's look for Inside Out Solutions!」～答えはコミュニティにある～というテーマで講演会を開催しました。そこで取り上げられたPD(Positive Deviance)アプローチは、昨今、広くは企業等の組織改革、開発途上国での栄養改善やDV防止へのアプローチ、医療分野においては感染症防御や難病・障害者支援等についても国内外で導入が試みられ、地域における課題解決の手法としても今後ますます期待が持たれています。静岡文化芸術大学の河村洋子氏による通訳も大変わかりやすく、学内外70名余の参加者アンケートでも「今後、より深く学びたい」という感想が多く聞かれました。

この他にも「百まで生きる覚悟～身じまいの作法」(講師・春日キスヨ氏)、「熊本地震等から学ぶ～災害に対する覚悟と準備」(有浦隆氏)、「医療的ケア児の発達支援における合意形成に関するワークショップ」「重度肢体不自由児のためのICTを活用したコミュニケーション支援講座」等、幅広く研修会を行っています。



# 杏祭

令和になって初めての杏祭が10月19日(土)に開催されました。今年は新アリーナでステージ発表、第4駐車場と2号館下に出店が並びました。その一部ですが、どうぞお楽しみください!





## 杏祭を終えて



杏祭実行委員長  
リハビリテーション学科  
生活機能療法専攻3年  
中島 友哉

『第43回杏祭』はいかがでしたでしょうか。今回の杏祭を振り返ってみると、楽しみな気持ちよりも不安な気持ちが大きな状態でスタートしたのを強く覚えています。

今年のテーマは「打ち鳴らせ はじまりの鐘」でした。年号が平成から令和へと変わり、令和第1回目の杏祭であるというだけでなく、今年で創立60周年を迎えた熊本保健科学大学の伝統の実績の上に新たなスタートを切るという意味が込められています。

昨年に引き続きメインステージは新アリーナで行われました。新アリーナ周辺での2回目の開催になりましたが、西側の空き地に2階建ての部室棟を建設する工事と時期が重なり、模擬店ブースの場所の再検討やそれに伴う駐車場など様々な問題に直面しました。それでも、各部署の責任者を筆頭に学友会生一丸となりこの問題に真正面から向き合ってくれ、大きな事故もなく無事に開催することができました。

また、今年もメインステージや2号館など会場の各

地に装飾を施しました。新アリーナに入っすぐのオブジェで記念写真を撮られている方が多く見られ、嬉しかったです。実際に装飾を楽しんでいただいた方も多かったのではないのでしょうか。

学友会全体としては5月の阿蘇研修から準備をスタートし、総勢100名の仲間と共に活動してきました。みんな後期に入るとカリキュラムがキツくなるにも関わらず、昼休みも放課後も時間ギリギリまで残って杏祭準備を進めてくれました。その一人ひとりの努力が実を結び、当日にはお笑いライブをはじめとした盛り上がるステージ企画が、約30店舗の個性豊かな模擬店が、ナース服体験などの魅力あふれる文化展が、空に散った打ち上げ花火が、最高の集大成となり第43回杏祭を終えることができました。

もちろん成功の陰には大学教職員のご指導、学生、卒業生の皆様をはじめとする地域の方々のご理解とご協力、ステージ設営などをしていただいた業者の方々のサポートがあります。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

苦楽を共に過ごしてきた最高の仲間と共に作り上げたこの杏祭、みなさんの目にはどう映ったでしょうか。今年の杏祭がみなさんの良き思い出となり、また来年の杏祭に足を運びきっかけとなっていたら幸いです。準備に携わってくださった方々、一緒に杏祭を盛り上げてくれた熊保生、お越しくださったみなさまありがとうございました。

## CIRCLE INFORMATION

### 野球部

こんにちは！野球部です。野球部は主に週1回の練習と年に数回ある大会に出場しています。今年行われた大会では決勝トーナメントに出場することができました。少し野球をしたい方、キャッチボールをしたい方などなたでも大歓迎です！！

代表 リハビリテーション学科  
言語聴覚学専攻2年  
前田 大輝

部員 47名  
活動場所 グラウンド



### Natural

ボランティアサークルnaturalです。私たちは西里駅の清掃を始め、地域の保育園や、障害を持つ方とボランティアを通して交流するといった活動を行っています。ボランティアをすることによって普段関わることの少ない障がいを持つ方や、子どもから高齢の方までの幅広い年齢層と関わることで、将来に向けて新たな価値観を得ることができています。最近では全国手をつなぐ育成会の全国大会へ参加し、大きな学びとなりました。現在部員は50名程で、校外の様々な場所で活動しています。

代表 看護学科2年  
田村 捺菜

部員 50名  
活動場所 学外





# 国際交流

## 大邱保健大学交換研修生

7月1日(月)～7月15日(月)に大邱保健大学から8名の学生を受入れました。大邱保健大学からの学生の中には日本語が堪能な学生が多数おり、他の学生も英語や携帯アプリを駆使してコミュニケーションを取っていました。15日間という短い期間ではありましたが、実習、講義、病院見学、日本語交流、日本文化体験等を通して本学の学生と交流していただきました。韓国の学生にとって日本の文化、医療等を学ぶいい経験になったのではないのでしょうか。また学生の滞在中、日々の交流を通して本学の学生も異文化について学ぶ機会ができました。一方先日行われた本学からの派遣学生による帰国報告会でも、韓国への研修が非常に有意義だった旨が報告されました。来年度も双方の学生にとって良い学びになるようプログラムの充実を図っていききたいと思います。(国際交流委員会)



## Global Student Leadership Program 体験報告

このGSLPのプログラムでは、韓国の文化について、大学内での禁煙の意義について、文化の関係性の違いでどのようなリーダーシップ性が求められるか、を他国の学生と英語で議論しました。やはり、国が違うと考え方や視点が異なり、いい刺激を受けることができたと思いました。

学校後、現地の韓国人の学生が積極的に私たちを市場や、ご飯に連れて行ってくれました。また、チマチョゴリ体験や寺院散策が韓国らしくとても楽しかったことを覚えています。私の今回の留学の目的は、語学力の向上と自分の視野を広げることでした。私の英語力ではあまり伝えたいことを伝えることができず、悩んだ時もありましたが、日を重ねるごとにコミュニケーションが取れるようになり、友達もでき、留学が終わった今、SNSなどでまだメッセージを送り合ったりしています。最初は不安もありましたが、今では本当にこのプログラムに参加してよかったなと思っています。



## 交換研修生帰国報告 大邱保健大学 (韓国)



看護学科4年

田上 奈々衣

私たちは大邱保健大学や実際の医療現場で沢山の学生や先生方達と交流し、日本と韓国における医療の比較を行いながらよりよい医療について考えることができた。日本と韓国における社会背景の共通点である高齢化という点からは、お互いの国が社会や地域のニーズに沿った医療を提供していく必要があるということ

を学んだ。

また大邱保健大学の学生達と共に観光や文化体験をすることができ、韓国をより好きになれた研修であった。この経験から来年自分が看護師になった後も、広い視野を持ちながら日々研鑽に努めていきたいと思った。



## 交換研修生帰国報告 コンケン大学 (タイ)



看護学科4年

黒川 遥

9月7日から2週間、タイのコンケン大学の交換研修に参加しました。講義が多かったのですが、これまでの大学生活で身につけた看護技術や知識を比較しながら学びを深めることができたと思います。空き時間や休日は先生方や他国からの留学生、コンケン大学の学生のおかげで楽しく充実した時間を過ごすことができました。タイの人はみんな優しく、困ったことがあれば親身になって話を聞いてくれたり助けたりしてくれたりしました。4年生ということもあって交換研修の参加はすごく迷ったのですが、このような貴重な経験ができて本当に良かったと感じています。

たことがあれば親身になって話を聞いてくれたり助けたりしてくれたりしました。4年生ということもあって交換研修の参加はすごく迷ったのですが、このような貴重な経験ができて本当に良かったと感じています。





# 研究室紹介

リハビリテーション学科 准教授 久保高明

わたしは理学療法士です。現在、3つの研究チームに所属し、本学リハ学科他専攻（生活機能療法学専攻、言語聴覚学専攻）、医学検査学科、看護学科の先生方と楽しく、かつ、さまざまな意見交換をしながら行っている研究内容と成果は以下の通りです。

## 「摂食嚥下研究チーム」

舌骨下筋群への介入では、20秒間の持続ストレッチや頸部前面への短時間の温熱療法（パラファンゴ法）で、反復唾液嚥下テスト（RSST）回数が上昇しました。座位の姿勢を取り、肘を台に乗せておく場合と乗せていない場合とを比較すると乗せた方がRSST回数が多くなる傾向にありました。頸部表面の皮膚面のメントール溶液の噴霧刺激（TRPチャネル刺激）を行うと舌骨上筋群の筋活動が上昇しました。

## 「入浴の研究チーム」

普段シャワー浴の方が、41℃のお風呂に10分間頸部まで浸かることで、やる気スコア（AS）や総合的気分状態（TMD）といったメンタル面が改善し、パデューペグボード作業課題の個数も増加しました。カモミール等の生薬入り入浴剤浴を行うと気分プロフィール検査（POMS）の「怒り一敵意」の項目が正常域に収束しました。無機塩類炭酸ガス入浴剤浴を行うと自覚的睡眠感（OSA-MA）の「起床時眠気」と「疲労回復」が良値となり、TMD、ASに加え、うつ性自己評価尺度（SDS）も改善しました。

## 「認知症の研究チーム」

多職種（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師）による複合的な認知症予防プログラムを週1回90分3か月間、地域の高齢者を対象に実施したところ、椅子起立時間（下肢機能）、SDMT（注意機能）、SF-8（健康関連QOL）の「全体的健康観」、「/pataka/の交互反復回数」、「語想起課題（動物）」が向上しました。

医療の世界はチームで活躍する時代となりましたが、本学の学生にも、研究における教員のチームアプローチを見ていただき、それが当たり前であるよう認識していただけるようにこれからも頑張りたいと思います。

## 新任教職員紹介 ようこそ、熊本保健科学大学へ

### 生物毒素・抗毒素共同研究講座



高橋 元秀  
(たかはし もとひで)  
特命教授

令和元年10月1日に本学と一般財団法人 化学及血清療法研究所との間で開設した「生物毒素・抗毒素共同研究講座」に着任しました。おもに国立感染症研究所、独立法人医薬品医療機器総合機構で勤務していた時期に「ワクチンと抗毒素（生物学的製剤）の製造と品質管理」、「毒素性細菌感染症の予防、治療、診断および疫学」「医薬品の品質保証」の調査研究領域に携わってきました。内容に興味のある方は、1218室に空茶を用意してお待ちしております。

### 生物毒素・抗毒素共同研究講座



坂本 智代美  
(さかもと ちよみ)  
特命助教

10月1日に、新設された共同研究講座に着任いたしました。本学を平成16年8月に退職後、臨床検査技師として検診業務等に1年ほど従事しました。妊娠後は仕事からは離れていましたが、子供が1歳半の頃から熊本大学発生医学研究所細胞医学分野にて研究支援として仕事をさせていただきました。これまでの経験を活かし、本学に貢献できればと思います。どうぞよろしくお願いたします。主人、子供（小6）、母の4人家族です。猫が1匹同居しています。

### 生物毒素・抗毒素共同研究講座



友清 和彦  
(ともよか かずひこ)  
客員教授

10月1日に化血研・熊本大「生物毒素・抗毒素」共同研究講座に着任いたしました。化血研・事業局と兼務で共同研究講座の研究・運営に参画いたします。化血研では永く凝固因子製剤の研究開発に従事し、血漿分画製剤、人体用ワクチンの臨床開発も行ってきました。「研究成果を形と成し、社会に貢献する」がモットーです。新しい風となり熊本大の発展に貢献できればと思います。何卒宜しくお願い致します。

### 生物毒素・抗毒素共同研究講座



諸熊 一則  
(もろくま かずのり)  
客員准教授

KMバイオロジクス株式会社（KMB）から10月1日に客員として着任しました。KMBでの仕事は医薬品の品質管理、特に動物を用いた試験の管理全般です。専門として、抗毒素製剤とDPT3種混合ワクチンの製造から品質管理まで深く関わっていました。本学の発展ひいては医療分野の今後の進展に少しでも寄与できるよう頑張ります。住まいは旧天竺明町で、妻と社会人の娘、そして愛猫のタマとの3人プラス1匹暮らしです。よろしくお願いたします。

### 医学検査学科



志多田 千恵  
(しただ ちえ)  
教務嘱託

7月2日付けで教員嘱託として医学検査学科に勤務することになりました。前職では製薬会社で品質管理の検査部門に所属しており、全く違う分野で一から新しいことを学びながら頑張りたいと思います。ご指導のほどよろしくお願いたします。

### 看護学科



竹井 千里  
(たけい ちさと)  
教務嘱託

11月より基礎看護領域で勤務させて頂いております。25年以上の臨床での看護の経験を活かして、学生の皆様に看護の楽しさを伝え、看護とは何かということと一緒に探求していきたいと思っています。実習や演習をおして、専門知識に裏付けられた確かな技術のみならず仁愛の心をもち、看護を創造できる看護師の育成にわずかながら尽力してまいります。どうぞよろしくお願致します。

## Library

○図書館システムのバージョンアップ及びリプレースが終了しました。新たな蔵書検索結果の表示、チェック式の絞り込み方法、マイライブラリの表示もわかりやすく、使いやすくなりました。どうぞご利用ください。

図書館ホームページ URL <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/>

○『私の部屋でランチを』第41回まで開催。演者は、認定看護師の皆さんや学部生の皆さん、教職員、そして『サイエンスカフェ』は第9回まで。第5回中原和美先生、第6回宮本恵美先生、第7回水本豪先生、第8回田邊香野先生、第9回竹屋学長。詳細は、図書館ホームページのお知らせをご覧ください。

○主要医学出版社9社79誌を同一プラットフォームで利用できる電子ジャーナル『医書.jp オールアクセス』の利用を開始しました。医学・医療系雑誌の論文記事を電子で読むことができます。すでに契約中のメディカルオンラインとこの医書.jpにより、約1,500の国内医療系電子ジャーナルをパソコンやスマホ、タブレットで閲覧できるようになりました。本学の教職員と学生の研究及び学修の情報基盤として大いに活用しています。

## 図書のご紹介 図書館蔵書の中から



『作業療法士ってすばらしい：熊本の未来を担う作業療法士の活躍』

(熊本保健科学大学ブックレット07)

責任編集：山野克明

発行：熊本保健科学大学 2019

著者：熊本保健科学大学 山野克明、

為近岳夫、小手川耕平、岩下夏岐、

介護老人保健施設静雅苑 西聡太、

桜が丘病院 田尻威雅、

向陽台病院 浦田健太郎

表紙画：本学学生 東 千尋

(配架場所：新着図書コーナー)



## 気になる体と「健康出前講座」

医学検査学科 教授 池田勝義

「特定健康診査」、通称「メタボ健診」が始まって久しい。国民の生活習慣病予防対策に効を奏したのだろうか。テレビや新聞、雑誌に取り上げられる回数は増えたようで、よく目にとまるようになってきたし、健康食品やサプリメント、健康関連グッズのコマーシャルなどは格段に増えてきたように思う。健康への関心は次第に高まってきているようだ。しかし、特定保健指導を受けて、「△△を食べてはならない」、「××カロリーを消費するための運動は…」と指導されても、100%実行するのは根気が必要だろう。楽に、手軽によい体を作っていくのは難しい。

私も「メタボ」が気になる年頃である。何かあったら家族や職場の同僚や友人に申し訳ないと、予防できるものなら頑張ろうと気合いを入れて、「1日1時間、運動する時間が作れないわけがない」と自分に言い聞かせてはいるものの、週3~4回がせいぜいである。仕事から帰ってジムに行くので、夜10時過ぎになるが、こんな時間でもジムは仕事帰りの人たちで賑やかである。普段、仕事をしていて流れる汗をかく

ことはほとんど無いので、体を動かして一汗かくのは気持ちが良い。通っていると、だんだん顔見知りも増え、これも楽しみの一つとなってくる。中にはマッチョなおじいさんもおられて、「負けてられんわ!」と気合いが入る。

最近では、なるべく「外の空気も吸おう」と、ジムで走る代わりにウォーキングも始めてみた。深夜の徘徊と間違われないうちか気がなったが、思いのほか夜遅くにウォーキングをしている人たちがいて、なんとなく心強い。この季節、歩いていると、どこからともなく水仙の花のよい香りが漂っていたり、街灯に映える木々の新芽が早春の訪れを告げてくれたり、夜のウォーキングも季節を感じさせてくれる。快適な室内環境で過ごすことの多い毎日は、うっかりすると四季のうつろいを忘れさせてしまう。四季を感じるのがカレンダーだけでは寂しい。やさしい新緑に目を休め、青い夏空にたっぷり汗を流し、色づく木の葉を楽しみ、澄み渡った冬空の星の瞬きをふるえながら眺める。自然とのひと時を忘れないように、自分の体も一緒に気にしていきたいと思う。

当大学に赴任して、「健康出前講座」に出動する機会が増えた。健康が気になる方たちに、文字通り健康啓発と健康増進、病気の早期発見のお役に立てればと講話を続けている。自分の体を、臨床検査データを通して大切に感じ取って欲しいと願い、参加者ひとりひとりに心のこもったお話をお届けしたいと思う。

### 基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

### 教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

## 将来ビジョン 保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる

### ビジョン1

社会の変化に対応し、リーダーシップを発揮できる医療技術者の養成

#### ビジョン1-1

教育改革の推進と  
学生ファーストの修学支援

#### ビジョン1-2

独創的な研究の推進と  
大学院の充実

### ビジョン2

地域に根ざし、地域と共に歩み、社会の幸福実現に貢献

#### ビジョン2-1

教育・研究組織の充実

#### ビジョン2-2

魅力的な教育・研究環境の充実

### ビジョン3

10年後も20年後も選ばれ続けるためのブランド力の強化

#### ビジョン3-1

学生・教職員の国際力の向上と  
海外の大学等との連携強化

#### ビジョン3-2

教員と職員が協働する  
効率的・合理的な職場環境の構築

### 「熊保大夢基金」のお願い

さて、本学園では、大学の主役である学生のために、奨学・修学支援、教育環境の充実を目的とした施設設備の推進、及び時代に沿う教育・研究機器の整備を図ることを目的として、「学校法人銀杏学園 熊保大夢基金」へ寄付をお願いしております。

いただきました寄付金は、平成30年3月に竣工しましたJR西里駅前のアリーナ建設や、令和2年秋に竣工予定の新レストラン（学食）などの施設設備も含めて学生生活を充実させることを目的として活用します。

つきましては、本学園へのご理解をいただき、基金へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、本学への寄付金は、税制上の優遇措置を受けることができます。

(詳しくは公式WEBサイト(URL)<https://www.kumamoto-hsu.ac.jp>または本学経理課までお問い合わせください。同封の「お願い」「募集要項」「申込書」もご覧ください。)

### 編集後記

新しい学校施設が出来上がります。学生の皆さんにとって、また、我々教職員にとっても楽しいキャンパスです。施設の充実を一つの機会として、みんなで成長していければと思います



熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において平成26年度大学機関別認証評価を受審し、平成27年3月10日付けで同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めてまいります。

GINKYO GAKUEN TSUSHIN  
“GINKYO” No.41

●学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学

〒861-5598 熊本市北区和泉町325番地  
TEL096-275-2111 FAX096-245-3126

<http://www.kumamoto-hsu.ac.jp>

●発行日/令和2年1月29日